



自ら再生したバイクでツーリングを楽しむタイヨールバイク部のメンバー（中之条町の暮坂峠のカフェで）

秋の行楽シーズン、渡良瀬渓谷沿いでツーリングを楽しむ人たちの中に、古いバイクを自分の手で再生させ、走らせているグループがあった。みどり市大間々町にある金属加工会社「タ

タイヨールバイク部

イヨール」（みどり市大間々町、川合義一社長）の社員たちで、新型コロナウイルス感染症の影響で社員交流が難しい中、3密を避けて楽しめるものをと誕生した。

古いバイクを自分で再生

3密避け ツーリング楽しむ

難削材加工を得意とし、発電所用のガスタービン部品や航空機のジェットエンジン用シャフトなど耐熱合金を中心とした切削加工を手掛ける同社。

一方、バイク部が活動する塩原工場では新規事業創出のため、Link s（リンクス）の小林栄仁さん、小林里紗さんと協力し、旋盤や溶接機などのアナログ機械と、3Dプリンターや3Dスキャナーなどデジタル機器を組み合わせた開発に挑戦している。

暮らせるよう、家の中や身の回りのものを提供するための事業「ウチどうらく」をスタート。その一環で、古いバイクのレストア（復元）に取り組む中、社内のバイク好きが集まり、バイク部を結成。「はじめに働きまじめに遊ぶ」とモットーに活動を楽しんでいる。

中心となる塩原工場の川合誠司工場長は「会社は地元の桐生工業高校の卒業生が多く、アットホームな雰囲気。これまでもバーベキューをしたり、スポーツをしたり、社員が交流する機会があったが、コロナ禍では昼食時の会話もできなくなくなった」そう、ツーリングならば3密にならないだろうと、バイクに興味のある人が集まり、結成しました」と話す。川合工場長は「塩原は日光から桐生、足利に至る渡良瀬渓谷のツーリングの中継地。いずれ社外にも門戸を開放し、バイクやものづくりが好きな人が集まって情報交換や製作体験などができるテーマパークのような場所にできたら、地域貢献にもなるのでは」と話している。

「ウチどうらく」事業に関する問い合わせは同社塩原工場（電72・2225）まで。